

平成十年九月二十九日

龍珠寺津送記錄誌

臨濟山 龍珠寺



# 龍珠寺紹俊和尚津送記録誌

平成十年九月二十九日

平成十年八月十二日晴

午前二時龍珠寺紹俊和尚遷化世壽八十歳 午前五時四十分乾徳寺ヨリ連絡アリ 早朝部内 電話

連絡 通夜十三日午後七時 密葬十四日午後一時以上内定

同午後八時凌雲寺 泰雲寺 乾徳寺 観音寺仮通夜諷經 大悲咒一卷普回向 親族 龍珠寺総代

加藤氏 他關係者会葬後凌雲寺 泰雲寺 観音寺 乾徳寺 龍珠寺総代加藤氏 親族 葬儀屋東

海典礼 他關係者密葬衆評

八月十三日午後七時通夜 同十四日午後一時密葬決定

牌面 再住妙心景州俊禪師大和尚 山門前二「山門不幸」ノ木札ヲ立テル

通夜 密葬告報式次第 役配差定等他打合後午後九時半帰山

平成十年八月十三日晴

出頭寺院 政林寺 寶珠寺 徳授寺 妙安寺 総持院 乾徳寺 大法寺 海国寺 観音寺 長盛

院 泰雲寺 慈雲副住 政林副住 凌雲副住 凌雲寺各寺院到着後薬石割子 引統通夜式準備

「通夜式役配差定」知客総持和尚 維那慈雲副住和尚 導師凌雲和尚 玉麟司大法和尚「凌雲和

尚 遺族席乾徳和尚各七条出頭」 会葬者 親族 龍珠寺総代檀信徒 乾徳寺檀信徒他

「通夜式次第」午後七時殿鐘支度同連聲絡子出頭通夜式 導師焼香入龕念誦十仏名 導師焼香観

音経了而入龕念誦諷經回向読経中堂内会葬者 総代 親族 檀信徒焼香 了而導師及各寺院退堂

後内衆評 八月十九日津送衆評 九月二十九日津送内定 徳源寺江松軒老大師秉炬導師 瑞泉寺

玄々庵老大師奠茶導師 妙興寺孤雲室老大師奠湯導師 拜請決定

平成十年八月十四日晴

出頭寺院 政林寺 陽徳寺 徳授寺 妙安寺 総持院 乾徳寺 大法寺 海国寺 観音寺 長盛

院 凌雲副住 慈雲副住 政林副住 凌雲寺各寺院到着後点心割子 引統密葬準備

「密送役配差定」起龕導師凌雲和尚 鎖龕導師乾徳和尚 那維慈雲副住和尚 六役妙安和尚

大法和尚 海国和尚 政林副住和尚 凌雲副住和尚 長盛尼和尚 知客総持和尚 安牌凌雲和尚

八事斎場凌雲和尚 乾徳和尚

会葬者 親族 龍珠寺総代加藤氏 檀信徒 乾徳寺檀信徒他

「密葬式次第」午後一時殿鐘支度同連聲本威儀出頭 紹俊和尚密葬 四弘誓願三遍返 鼓跋四二

三 三通 龕前念誦十仏名引統 鎖龕仏事乾徳和尚焼香大悲咒一卷鎖龕回向了而 起龕念誦十仏

名引続起龕仏事凌雲和尚焼香大悲咒一卷起龕回向 引続導師焼香世尊偈茶毘回向 読經中堂内会葬者龍珠寺総代遺族 檀信徒焼香 引続鼓跋四二三 三通了而導師並各寺院退堂休息後散筵  
 午後二時出棺 喪主挨拶凌雲和尚 八事齋場凌雲和尚 乾徳和尚 於齋場舍利礼文普回向  
 午後四時遺骨到着 遺族並関係者帰山後  
 安牌諷經出頭寺院総持院 凌雲寺 乾徳寺  
 安牌諷經焼香三拜大悲咒一卷安牌回向 会葬者龍珠寺総代加藤氏 親族他 導師凌雲和尚 那維  
 総持和尚了而薬石割子 後午後六時半散筵

「龍珠寺紹俊和尚密葬式次第並告報」

八月十四日

八月十四日

紹俊和尚密葬式次第

午後一時  
 殿鐘五聲支度同連聲本威儀出頭  
 四弘誓願三遍返  
 鼓跋四二三 三通了而  
 龕前念誦十仏名引続  
 鎖龕仏事乾徳和尚(香語)  
 鎖龕導師焼香大悲咒一卷  
 鎖龕回向了而  
 起龕念誦十仏名引続  
 起龕仏事凌雲和尚(香語)  
 起龕導師焼香大悲咒一卷  
 起龕回向引続  
 起龕導師焼香世尊偈茶毘回向  
 読經中堂内会葬者龍珠寺総代及  
 遺族 檀信徒焼香  
 引続鼓跋四二三 三通了而  
 導師並各寺院退堂休息後散会  
 以上

謹告(密葬)

午後一時殿鐘五聲支度同連聲本威儀  
 出頭紹俊和尚密葬 四弘誓願三遍返  
 鼓跋四二三 三通了而  
 龕前念誦十仏名引続  
 鎖龕導師焼香<sub>了而</sub>焼香大悲咒一卷回向  
 起龕念誦十仏名引続  
 起龕導師焼香<sub>了而</sub>焼香大悲咒一卷回向  
 起龕導師焼香世尊偈茶毘回向読經<sub>引続</sub>  
 中会葬者焼香<sub>了而</sub>鼓跋四二三 三通了而  
 導師並各寺院退堂<sub>於</sub>書院休息後 散筵  
 右

小智 敬白

当日ハ起龕鎖龕香語ハ省略シタ

靈前二次ノ項目  
 フ奉書紙二巻テ  
 水引ヲ掛テ供ル

語録  
 筆硯  
 袈裟  
 直綴  
 念珠  
 鉢盂  
 竹篋  
 經典  
 如意  
 印籠  
 墓標 本堂内陣  
 他柱 鑿子台等  
 フ白布デ巻ク  
 衆常無辺 清淨  
 法身毘盧遮那佛  
 旗等壇上ニ掲グ  
 是ハ九月廿九日  
 ノ津送ニモ同ジ  
 ク使用スル

入齋念誦

切に以みれば冥權妙蜜 化迹を人天に示し 至性円明 玄機を仏祖に契わしむ 恭しく惟れば  
堂頭和尚 激然たる智月 光り万頃の波に収まる 允なるかな悲心 式十方の感に副う  
瞻顔地無く 披志帰する有り 是に真徒を集めて聖号を讃揚す 為如上縁念  
十仏名唱和

入齋念誦諷經回向 (観音經)

上来念誦諷經する功德は 新示寂再住妙心景州俊禪師大和尚の為にし奉り 無生の報地 妙極を  
莊嚴せんことを 十方三世云々

齋前念誦

大衆に白す 堂頭和尚般涅槃に入る 是の日に已に過れば命もまた随つて減ず 少水の魚の如し  
斯に何の樂か有らん 衆等当に勤めて精進し頭念を救うが如くすべし 但無常を念じ慎んで方逸  
なること勿れ 恭しく大衆を集めて齋幃に肅詣し 万徳の洪名を誦持して 品位を増崇し奉る  
仰憑大衆念 十仏名唱和

齋前念誦諷經回向 (大悲呪) 「当日ハ省略シタ」

上来念誦諷經する功德は新示寂 再住妙心景州俊禪師大和尚の為に奉げたてまつる 伏して願  
わくば願力を忘れず 再び曇花を現じ 慈航を生起の逝波に棹さし 群迷を菩提の彼岸に接し  
再び大衆を勞して念ぜん 十方三世云々

起齋念誦

金棺自ら舉して拘尸の大城を遶る 幢旛空に揺らいで茶毘の盛礼に赴く 仰いでは大衆に憑みて  
洪名を称念し 用つて攀違を表わし 上覚路を資けて念ず 十仏名唱和

起齋 (鎖齋) 回向 (大悲呪)

上来念誦諷經する功德は 新示寂 再住妙心景州俊禪師大和尚 起齋 (鎖齋) の為に奉げ 品位  
を増崇せしことを 十方三世云々

茶毘回向

上来念誦諷經する功德は新示寂 再住妙心景州俊禪師大和尚 茶毘の為に奉げ 品位を増崇せん  
ことを 十方三世云々

安骨回向

上来念誦諷經する功德は 再住妙心景州俊禪師大和尚 安骨の為に奉げ 品位を増崇せんことを  
十方三世云々

平成十年八月十九日晴

午後五時 於書院龍珠寺紹俊和尚津送衆評 出席寺院 政林寺 妙安寺 総持院 乾徳寺 慈雲寺 大法寺 海国寺 観音寺 長盛院 凌雲寺 各寺院到着後於本堂紹俊和尚初七日 焼香三拜 大悲咒一卷回向 衆評事項

役配

差定

秉炬導師

江松軒老大師

総鑑

凌雲和尚

奠茶導師

玄々庵老大師

知客

政林大和尚

奠湯導師

孤雲室老大師

乾徳和尚

起龍導師

凌雲和尚

大仙和尚

鎖龍導師

乾徳和尚

龍興和尚

押喪(送) オランダ

大仙和尚 スハ マンソウ

妙安和尚

引請 イニシヨフ

龍興和尚

総持和尚

直歳 シツスイ

慈雲副住和尚

大法和尚

侍真

徳授和尚

海国和尚

六役

慈雲副住和尚

徳授副住和尚

副司

極楽和尚

政林副住和尚

慈雲和尚

凌雲副住和尚

泰雲和尚

永松和尚

凌雲副住和尚

雲龍和尚

殿司

兼 観音和尚

安牌

大雄副住和尚

慈雲副住和尚

無量寿和尚

政林副住和尚

右

典座

無量寿和尚

尊侍兼茶頭 兼 観音尼和尚

長盛尼和尚

雲衲二位

右

訃音

秉炬導師拜請

■山 住職紹俊和尚儀

豫而 四大不調療養中之処

八月十二日遷化致候

就而者九月二十九日午前十時

津送引續 新忌齋修行支度

御繁忙中誠乍 恐縮御隨喜

賜度伏而 奉悃願候

誠恐惶頓首敬白

平成十年八月 日

欽啓上

即辰残暑尚嚴之候 恭惟

江松軒老大師金蓮大座下動靜

倍々御萬安御應化可被遊候條

法門之盛事不過之奉欽賀候

陳者■山 住職紹俊和尚去八月

十二日午前三時遷化仕候

就者来九月二十九日午前十時

津送並 新忌齋修行仕度候法務

御多端之砌遠路誠乍 恐縮秉炬

導師願申上度此段伏而奉悃願候

誠恐惶頓首欽白

平成十年八月二十四日

龍珠寺法類總代〇

謹 第〇〇羅拜

龍珠寺法類總代〇

謹 第〇〇羅拜

堂頭老和和尚

江松軒老大師

侍史下

金蓮大座下

龍珠寺法類總代凌雲小住善久

新忌齋ノ導師ハ口頭デ才願イシタ

遺弟 乾徳小住紹真

奠湯奠茶拜請ハ夫々差替

上告

九月廿九日

午前十時殿鐘五聲支度同連聲本威儀出  
頭紹俊大和尚津送 四弘誓願讀導師入堂  
開式ノ辞 鼓跋四二三 三通了而西班退席  
大本山妙心寺管長下並檀信徒總代弔  
辞引讀弔電披露了而山頭念誦

奠湯 孤雲室老大師香語

奠茶 玄々庵老大師香語了而小師三拜引讀

秉炬 江松軒老大師法語

引讀楞嚴呪一五段座誦 読經中遺族並会葬

者焼香了而茶毘回向引讀謝辞了而閉式ノ辞

鼓跋三通打流ノ導師並尊宿退堂小憩

殿鐘支度本威儀法鼓出頭 新忌齋 献供

九拜 拈香 楞嚴呪一三五段行導了而回向

引讀就干本堂出齋後散筵

右

小室 謹白

訃音状發送準備 非品襦袢三枚山田法衣店 粗菓万年堂御ちよぼ三千円程度 次回衆評九月二十

八日午後四時參集 九月二十九日当日は午前八時半集合 以上確認決定

拜請寺院

導師各老大師

徳源寺江松軒老大師 瑞泉寺玄々庵老大師 妙興寺孤雲室老大師

公職者寺院

大興寺 陽徳寺 永弘院

一部寺院

徳源寺 禪隆寺 龍珠寺 解脱寺 総見寺 光勝院 政秀寺 白林寺 善昌寺 寶林寺 地藏院  
金剛寺 大林寺 薬師寺 海福寺 林貞寺 菊水寺 長松寺 法泉寺 八田観音寺 高照寺

二部寺院

妙安寺 海国寺 総持院 政林寺 長盛院 大法寺 慈雲寺 慈雲副住 政林副住  
龍珠寺法類寺院

凌雲寺 乾徳寺 泰雲寺 観音寺 大仙寺 龍興寺 無量寿寺 極楽寺 凌雲副住  
縁故寺院

松下観音寺 寶珠寺 徳授寺 永松寺 雲龍寺 大雄寺 徳授副住 総見院 徳岩寺 能濟寺  
寶満寺 正法寺 金山寺 常安寺 玉龍寺 福田寺 以上

訃音状發送準備了而薬石鰻并定食 午後九時散筵  
平成十年八月二十四日晴

凌雲和尚 乾徳和尚午前九時半犬山瑞泉寺到着 犬山瑞泉寺 一宮妙興寺 名古屋徳源寺黒衣無  
地大絡子ニ各老師拜請 途中徳岩寺へ役配差定書記依頼午後四時帰山 老大師菓子 菓儀参万円  
平成十年八月二十五日晴

午後五時 二七日出頭寺院 泰雲和尚 乾徳和尚 凌雲和尚 絡子出頭焼香三拜大悲咒一卷回向  
接待はお茶のみとする。死亡通知書宗務支所長へ提出。

出齋 安江御膳金七千円 非品 山田法衣店襦袢三枚 菓子 万年堂おちよぼ 夫々依頼  
平成十年九月一日晴

午後五時 三七日出頭寺院 泰雲和尚 乾徳和尚 凌雲和尚 絡子出頭焼香三拜大悲咒一卷回向  
告報役謝用紙製作

平成十年九月八日晴

午後五時 四七日出頭寺院 観音尼和尚 乾徳和尚 凌雲和尚 絡子出頭焼香三拜大悲咒一卷回  
向 奉謝 役者 還香 帛香資等協議

平成十年九月十五日曇時々雨  
午後五時 五七日出頭寺院 泰雲和尚 観音尼和尚 乾徳和尚 凌雲和尚 絡子出頭焼香三拜大  
悲咒一卷回向 津送準備協議

平成十年九月十八日曇

碁会縁故寺院拜請追加 福田寺 玉龍寺

平成十年九月二十二日台風、雨

海国寺施餓鬼了而午後一時 六七日出頭寺院 泰雲和尚 観音尼和尚 慈雲和尚 凌雲和尚絡子  
出頭焼香三拜大悲咒一卷回向後台風接近の為早々散会

平成十年九月二十八日雨時々曇

東海典礼山門 本堂入口 本堂等津送準備 隱寮 隱寮二階 書院他赤毛織 座蒲団等 接待準備

各寮舎割は 各老師 公職者 再任大方隱寮二階 一般尊宿隱寮 知客 副司 殿司 その他  
書院 尊侍兼茶頭書院裏間 受付玄関心接間 以上

謹告 (役寮)

九月二十八日

午後四時參集各寺院到着後総茶礼 了而衆評打合 後各寮津送並新忌齋準備 午後六時殿鐘支度  
同連鐘本威儀出頭紹俊和尚宿忌焼香三拝楞嚴咒一五段座誦回向 引続津送慣シ 了而薬石後散筵

右

小知客 敬白

龍珠寺津送衆評 乾徳寺 凌雲寺 海国寺 政林寺 政林寺副住 妙安寺 総持院 慈雲寺 大法寺 長盛院 凌雲寺副住 泰雲寺各寺院到着後総茶礼  
知客寮挨拶「茶後挨拶」

『ハイ！』ご抵当には及びません、どうぞお頭をお挙げ下さい

皆様方には、彼岸中お施餓鬼の加担等で大変お疲れの処、引続龍珠寺津送に、ご参集いただきまして有り難うございます。(各刹諸大徳には愈々ご清福のこと、何より法幸に存じ上げます)。さて、このたびは紹俊和尚の津送並新忌齋に、拝請申し上げましたところ、公私とも大変お忙しい中曲げてご加担を賜り、厚く御礼申し上げます。未熟者、はなはだ不馴れながら、知客寮の大役を仰せつかりました。皆様のご法愛とご指導を賜りまして一星事なく首尾円成のほど、ここに予めお願い申し上げます。それでは告報、並び役配差定を、盲読させていただきます。

九月二十八日

午後四時參集各寺院到着後総茶礼 了而衆評打合 後各寮津送並新忌齋準備 午後六時殿鐘支度  
同連鐘本威儀出頭紹俊和尚宿忌焼香三拝楞嚴咒一五段座誦回向 引続津送慣シ 了而薬石後散筵  
九月二十九日

午前八時半參集各寮津送並新忌齋打合準備 寺院受付開始 知客寮大方 公職者 再任大方於山門 門迎隱寮案内 各尊宿案内 午前十時紹俊和尚津送 津送告報は恐縮ですが省略します  
了而新忌齋準備 引続新忌齋 了而出齋準備 就干本堂知客寮謝辞 出齋 役寮ハ二番座了而

後片付 引統総茶礼 後副司寮謝辞 了而散筵

役配

差定

秉炬導師	江松軒老大師・六役	慈雲副住和尚・総鑑	未熟者	慈雲和尚
奠茶導師	玄々庵老大師	政林副住和尚・知客	政林大和尚	泰雲和尚
奠湯導師	孤雲室老大師	凌雲副住和尚	乾徳和尚	凌雲副住和尚
起龍導師	未熟者	永松和尚	大仙和尚	典座 無量寿和尚
鎖龍導師	乾徳和尚	雲龍和尚	龍興和尚	殿司 觀音和尚
押喪(送)	大仙和尚	大雄副住和尚	妙安和尚	慈雲副住和尚
引請	龍興和尚	安牌 無量寿和尚	総持和尚	政林副住和尚
直歳	慈雲副住和尚	右	大法和尚	茶頭兼 觀音和尚
那維	觀音和尚		海国和尚	尊侍 長盛和尚
侍真	徳授和尚		副司 徳授副住和尚	雲衲二位

各寮舎割は 各老師 公職者 再住大方隱寮二階 一般尊宿隱寮 知客 副司 殿司 その他  
書院 尊侍兼茶頭書院裏間 受付玄関応接間 以上

告報差定等は、斯様でございますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。なお、ご不明の点は、お訪ねいただければ幸いに存じます。長々尊聴を汚し失礼を申し上げます。どうぞぞあしからず。ハイ！』。

総茶礼了而衆評 知客寮案内分担 江松軒老大師政林大和尚 玄々庵老大師 孤雲室老大師大仙和尚 公職者 再住大方妙安和尚 一般尊宿大法和尚 海国和尚 本堂出齋謝辞凌雲和尚 慈雲副住和尚欠席ノ為金山和尚ニ変ワル他告報ニツイテ  
弔儀 香資等

凌雲寺 乾徳寺弔儀二万円 香資三万円 淋見舞一万円  
ソノ他法類 役寮弔儀一万円 香資二万円 淋見舞五千元  
一般尊宿弔儀一万円 香資一万円  
奉謝 役謝 還香等

江松軒老大師奉謝六十万円 玄々庵老大師 孤雲室老大師奉謝四十万円 各老師還香全額  
各老師奠儀三万円菓子箱  
役寮密葬 津送各出席者役謝十万円 還香香資

密葬ノミ又ハ津送ノミ出席者役謝五万円 還香香資

公職者車駕料一万円 還香全額

書記徳岩寺閑栖謝儀五万円

徳源寺雲納二位小嘶六万円 供養五万円 以上

午後六時 殿鐘支度同連鐘本威儀出頭 紹俊和尚宿忌 焼香三拜楞嚴咒一五段座誦 了而回向  
後檀信徒 親族焼香 慣ラシ忘 導師並寺院退堂 藥石準備 後藥石割了而午後七時半散延

平成十年九月二十九日曇時々晴(紹俊和尚七七忌)

「龍珠寺紹俊和尚津送並新忌齋」

謹告 (役寮)

九月二十九日

午前八時半參集各寮津送並新忌齋打合準備 寺院受付開始 知客寮大方 公職者 再住大方於山門 門迎隱寮案内 各尊宿案内

午前十時殿鐘五聲支度同連聲本威儀出頭紹俊和尚津送 四弘誓願 導師入堂開式ノ辞 鼓跋四二三三通<sup>了而</sup>兩班退席大本山妙心寺管長猊下<sup>並</sup>檀信徒總代弔辞<sup>弔</sup>弔電披露<sup>了而</sup>山頭念誦 奠湯 孤雲室老大師香語 奠茶 玄々庵老大師香語<sup>了而</sup>小師三拜<sup>引</sup>秉炬 江松軒老大師法語<sup>引</sup>楞嚴呪一五段座誦 誦經中遺族<sup>並</sup>云葬者焼香<sup>了而</sup>茶毘回向<sup>引</sup>檀信徒總代謝辞<sup>了而</sup>閉式ノ辞 鼓跋三通打流<sup>引</sup>導師<sup>並</sup>尊宿退堂小憩 新忌齋準備了而 殿鐘支度本威儀法鼓出頭新忌齋 献供九拜 拈香 楞嚴呪一三五段行導<sup>了而</sup>回向 出齋準備<sup>引</sup>就干本堂知客寮謝辞出齋 役寮八二番座了而後片付 引統総茶礼 後副司寮謝辞了而散筵

右

小知客敬白

午前八時半役寮乾徳寺 海国寺 妙安寺 総持院 凌雲寺副住 大法寺 長盛院 慈雲寺 泰雲寺 凌雲寺 観音寺 政林寺 政林寺副住 松下観音寺 大仙寺 無量壽寺 極楽寺 龍興寺  
他縁故寺院 役寮各寺院到着引統抹茶接待 後知客寮門迎 副司寮受付 殿司出頭準備 他各役寮準備執行

東海典礼葬儀屋境内 山門來客準備 大方 公職者 尊宿來山準備万端

役配

差定

秉炬導師 江松軒老大師

総鑑 凌雲和尚

奠茶導師 玄々庵老大師

知客 政林大和尚

奠湯導師 孤雲室老大師

乾徳和尚

起龕導師 凌雲和尚

大仙和尚

鎖龕導師 乾徳和尚

龍興和尚

押喪(送) マシラ 大仙和尚

妙安和尚

引請 イシヨシ 龍興和尚

総持和尚

直歳 シシメ 慈雲副住和尚

大法和尚

那維 準 観音和尚

海国和尚

侍真 徳授和尚

徳授副住和尚

六役 慈雲副住和尚

副司 極楽和尚

政林副住和尚

慈雲和尚

凌雲副住和尚

泰雲和尚

永松和尚

凌雲副住和尚

雲龍和尚

典座 無量寿和尚

大雄副住和尚

殿司 準 観音和尚

安牌 無量寿和尚

慈雲副住和尚

右

政林副住和尚

尊侍兼

準 観音和尚

茶頭

長盛<sup>尼</sup>和尚

雲柄二位

右

謹告

九月廿九日

午前十時殿鐘五聲支度同連聲本威儀出  
頭紹俊大和尚津送 四弘誓願讀導師入堂  
開式ノ辞 鼓跋四二三 三通了而兩班退席  
大本山妙心寺管長猊下並檀信徒總代弔  
辞引讀弔電披露了而山頭念誦

奠湯 孤雲室老大師香語

奠茶 玄々庵老大師香語了而小師三拜引讀

秉炬 江松軒老大師法語

引讀楞嚴呪一五段座誦 誦經中遺族並会葬  
者燒香了而茶毘回向引讀謝辞了而閉式ノ辞

鼓跋三通打流シ 導師並尊宿退堂小憩

殿鐘支度本威儀法鼓出頭 新忌齋 献供

九拜 拈香 楞嚴呪一三五段行導了而回向

引讀就干本堂出齋 後散筵

右

小知等敬白

午前八時五十分玄々庵老大師到着 九時二十五分江松軒老大師 孤雲室老大師各老大師到着 公

職者 一般尊宿隨時到着 各老師 公職者 尊宿安單後抹茶接待

午前十時告報通り津送執行 弔辞大本山妙心寺管長宗務所長大興寺代読 檀信徒總代加藤市三氏

奠湯 孤雲室老大師香語 奠茶 玄々庵老大師香語 秉炬 江松軒老大師法語 了而新忌齋準備

午前十一時三十分殿鐘支度本威儀法鼓出頭新忌齋 嚴肅ニ告報通執行 新忌齋導師江松軒老大師

新忌齋香語

龍 山 苑 裡 雲 深 処

馥 郁 幽 香 滿 碧 天

今 日 忌 辰 献 一 片

松 青 月 白 未 了 因

右定中照鑑

圓嶽九拜

津送並新忌齋式次第

午前十時殿鐘五聲支度四弘誓願裡本威儀出頭（告報ハ連聲出頭ニ成ッテイル）

海国和尚尊宿先導 妙安和尚公職者大方先導

大仙和尚奠湯導師孤雲室老大師 奠茶導師玄々庵老大師先導

政林大和尚遺弟ヲ伴テ秉炬導師江松軒老大師先導

開式ノ辞 司会徳授副住和尚

鼓跋四二三二通<sup>ノ</sup>両班退席（当日は管長貌下ノ弔辞ガ先ニナル「コレハ間違イ」）

大本山妙心寺派管長猥下弔辞 宗務所長大興和尚代読

檀信徒総代弔辞 加藤市三氏

弔電披露 東海典礼

山頭念誦 松下観音和尚

奠湯導師 孤雲室老大師香語 「湯 中継政林副住和尚」

奠茶導師 玄々庵老大師香語 「茶 中継凌雲副住和尚」

小師三拜 遺弟 乾徳和尚

秉炬導師 江松軒老大師法語 「炬 中継松下観音和尚」

楞嚴呪一五段座誦 読経中小師遺族並会葬者焼香 尊宿八回シ香炉

茶毘回向 松下観音和尚

謝辞 総代加藤市三氏

閉式ノ辞 司会徳授副住和尚

鼓跋三通打流<sup>シ</sup>

導師<sup>並</sup>尊宿退堂小憩 各知客寮先導

新忌齋準備 東海典礼 役寮

新忌齋 導師江松軒老大師 維那 松下観音和尚 行導先導 大法和尚

殿鐘五聲支度本威儀法鼓出頭

政林大和尚遺弟ヲ伴テ導師先導 各知客寮公職者他尊宿先導

献供九拜拈香 侍真徳授和尚 答拜 遺弟乾徳和尚

楞嚴呪一三五段行導<sup>了</sup>而回向 尊宿八回シ香炉座拜 導師並各寺院退堂小憩

出齋準備 料理安江 役寮 各知客寮尊宿 公職者 老大師案内

於本堂出齋 謝辞凌雲和尚 接待各役寮 安江

以上

山頭念誦

是の日即ち新示寂再住妙心景州俊禪師大和尚有りて 化縁既に畢つて遽に真常に返る 靈棺遍く  
拘尸を遶り 性火自らを此の日に焚く 仰いで大衆に憑みて覺靈を資助す

「南無西方極樂世界 大慈大悲阿弥陀仏」(大衆三唱)

上来聖号を称揚し 恭しく化儀を賛す 体は先宗に格して峻機佛祖を容れず 用は後学を開き悲  
心仍て人天に接す 幻化の百骸を収め 火光の三昧に入る 茶三奠を傾け香一炉に焚かん 頂戴  
奉行 和南聖衆

茶毘回向

(楞嚴呪)

上来念誦諷經する功德は新示寂 再住妙心景州俊禪師大和尚 茶毘の為に奉げ 品位を増崇せん  
ことを 十方三世云々

引続出齋準備 午前十二時半出齋

知客寮謝辞

『はい！えー 低頭には及びませんのでどうか頭を上げてください』

本日は、皆様方には、大変お忙しい中を曲げて当山住職紹俊和尚の津送並新忌齋にご参列を戴  
きまして有り難うございました。衷心より厚く御礼申し上げます。特におそれ乍ら、江松軒老大  
師には、特段のご法愛のもとに、秉炬御導師を賜りました。又玄々庵老大師、孤雲室老大師、各  
老大師には、これ又大変お忙しい中、貴重なお時間を曲げてご焼香を賜りました。又公職者の皆  
様、教区内尊宿、法類寺院の各刹、更には縁故寺院の各刹。本日は皆様方のおかげによりまして  
紹俊和尚の津送並新忌齋を首尾一星事なく円成させていただくことが出来ました。

後になりまして大変恐縮ですが、ご霊前には、過分に弔儀、香資、お供え等戴きまして誠に有  
り難うございました。重ねて御礼申し上げます。

最後になりましたが、粗齋ではございますが、どうか時間の許す限りごゆっくりしていただき  
たいと存じます。本日は大変有り難うございました。 はい！』 了 知齋

役寮齋座接待 午後一時弧雲室老大師帰山 一時十五分齋座締メ 一時二十分玄々庵老大師帰山

江松軒老大師 公職者 各尊宿続テ帰山散延 引続午後二時役寮二番座

料理安江(七千円) 非品夏襦袢三枚山田法衣店(二万円) 菓子万年堂(三千円)

了而役寮跡片付午後三時総茶礼知客謝辞

『ハイ！ ご抵当には及びません、どうぞ頭をお挙げ下さい。』

昨日より本日にわたり、諸大徳方には一方ならぬご法愛、ご加担を賜り、誠に有り難うございました。お陰様をもちまして無事円成出来ましたことを、衷心より重ねて御礼申し上げる次第でございます。また、会中は未熟者、高寮辺をお預かりして、皆様方に、何かとご迷惑を、おかけ致し、大変失礼を申しました。お役に免じて、ここにお赦しを賜りたく、謹んでお詫び申し上げます。誠に有り難うございました。ハイ!。(後茶)  
了而副司寮謝辞

『ハイ! ご抵当には及びませんが、どうぞ頭をお挙げ下さい。諸大徳方には一方ならぬご法愛ご加担を賜り、誠に有り難うございました。お陰様をもちまして無事円成出来ました。いちいちお礼に参上致すのが本来ですが、この場をお借りしまして、お礼をさせていただきますので、あしからず。誠に有り難うございました。ハイ!。』引続非品 役謝 還香等配

総茶礼了而会中把放帳整理後片付 後午後三時役寮順次下山

九月三十日曇

乾徳和尚黒衣無地大絡子 龍珠寺総代加藤氏 瑞泉寺玄々庵老大師 徳源寺江松軒老大師 妙興寺孤雲室老大師 各僧堂へ謝礼 各老大師 菓儀三万円 法類一同羅拜 菓子箱  
把放内訳書

把住の部		把住の部	
龍珠寺本会計より	金	山田法衣店非品襦袢	金
弔香資等	金	万年堂御ちよぼ菓子代	金
通夜密葬香典	金	通夜密葬諸費用	金
その他	金	香典返し等	金
把住計	計金	その他	金
	円也	放行計	計金
			円也
放行の部		放行の部	
奉謝役謝菓儀等	金	差引計	金
通夜密葬葬儀屋支払	金		円也
安江御膳代	金		以上
	円也		

此二龍珠寺紹俊和尚津送並び新忌斎 首尾一星事ナク円成

完

凌雲寺住 曼謹誌